

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ がん教育
- 2 対 象 5年生
- 3 専門医 奥山 慎一郎 医師
(訪問診療クリニックやまがた)
- 4 実施月 9月
- 5 内 容(キーワード)
がんという病気(治療・予防を含む)
大事な人ががんになったら



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- (○)有効だった
()有効でなかった

<その理由>

*がんについて学び、がん向き合う人々を支える医師の話を聴くことにより、自他の健康といのちの大切さに気づくことができた。

②校内の組織づくりについて

- (○)有効だった
()有効でなかった

<その理由>

*外部講師によるがん教育は3年目になり、がん教育の必要性が認知されてきている。講師謝礼についても予算化できるようにしていきたい。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- (○)有効だった
()有効でなかった

<その理由>

*子どもの健康づくり連携事業をきっかけに、専門医とつながりができ、来年度以降も講師をお願いすることができた。

〔受講者の感想など〕

- がんになる原因がたばこだけではなく、食べ物(からいものや塩分)のとりすぎでもなることを知った。
- 東北で山形の放射線技術が一番進んでいると聞いてびっくりした。
- お父さんお母さんは、いっぱいおこったりしてストレスがたまっているのが心配になった。
- 両親にがん検診を受けているか聞こうと思った。
- 友達や家族がもしがんになったら、そばでよりそってあげたい。

〔教科やその他の指導との関連性〕

- がんという病気について、3年時の保健「けんこうな生活」、防煙教室等での既習事項がいかされ、理解が深まった。

